

# 虫ヶ峰と 歴史の道

## 町屋と虫ヶ峰

七尾市の北に位置する中島の鉦打地区町屋集落は、標高約295メートルの虫ヶ峰の麓にあり、熊木川が流れている。

主要地方道富来・中島線から祭り会館の横を過ぎ、山あいを通り町屋に向う。熊木川にかかる町屋橋を渡って集落に入ると、青田風になびく緑の田が広がっている。山裾には、黒瓦を配した美しい家並みが見え、さらに先へ進むと、虫ヶ峰の登り口に着く。

虫ヶ峰は中島地区と志賀町富来の境にあり、日本海の外浦と富来の山並み、七尾湾に浮かぶ能登島や和倉が、林道のところどころからみることができ、風光明媚なことで知

られている。地域の人からは、「町屋の御前」とも言われている。

山頂には白山神社があり、「能登国三十三観音巡礼札所」の二十四番札所になっている。毎年、田の植え付けを一通り終えたところに田休み行事とし



白山神社

て穀造祭が行われ、町屋の住民が神社までのぼり、五穀豊

穰、家内安全などを祈願し、直会も行われるという。

## 歴史の道 峨山道

能登半島を縦走する「峨山道」は、今から約650年前、輪島市門前町の曹洞宗大本山総持寺二祖の峨山禪師が総持寺と羽咋市にある永光寺の住職を兼ねていた20年余の間、両寺を結ぶ約60kmの道を毎日通い続けたと伝えられている道である。

現在は、輪島市門前町で毎年春と秋に峨山禪師の遺徳を偲び、峨山道巡行が行われ、毎回多くの人が参加する。峨山道にはいろいろな説があるようだが、町屋地内には、南北朝期の阿弥陀信仰の所産である名号碑が残され、この碑

の前を峨山道が通っていたと伝えられている。隣町の鳥越には田の片隅にお地藏様が残



鳥越のお地藏様

されており、その前にも峨山道が通って町屋の道とつながっていたという。

また、虫ヶ峰の山頂には、かつて人々が峰越えに使っていたといわれる古道があると



聞き、足を踏み入れてみた。生い茂るくま笹をかき分け、わずかに残る道の跡を頼りに峰を下った。新緑の美しい道が続き、さらに下って行くと鬱蒼とした杉木立が現れ道が急になってきたので、進むことをあきらめ引き返した。

## 自然を活かした 風力発電

虫ヶ峰の頂上へは、車で行くようになっており、林道からの眺望を楽しみながら登っていくと、巨大な風車が目に飛び込んできた。青空に白いプロペラが映え、コントラストが美しい。近くまでいく

と、ビュンビュンとまるでヘリコプターのような迫力ある音を立てて回っていた。

虫ヶ峰風力発電所は平成16年に建設され、日本海からの風を多く受けることができる環境負荷の少ないエネルギー施設として期待されている。

地球温暖化が深刻な問題になってきている。私たちが、毎日過ごしている状況が決して当たり前でないことを理解し、自然の中で生かされていることを自覚したい。そして一人ひとりが、自分たちの住むまちの歴史と豊かな自然について再認識し、未来をつかっていくことを願う。

### DATA

#### 虫ヶ峰風力発電所

10基の風力発電機を備え、使用する風車の羽は、直径77メートル、地上からハブの高さは63.6メートルと国内最大級である。

総出力1万5千キロワット、年間発電量は、約3千万キロワット、一般家庭の消費電力に換算すると約8200世帯分に相当する。資源制約が少ない新しいクリーンエネルギーとして注目されている。



(参考資料：中島町史、七尾市の文化財)